

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <https://www.japa.fellowlink.jp/>

INDEX

1. コラム「論点提起」：新たな地平や如何
2. キュレーション「関連情報&Topics」：コロナ禍
×イノベーション×地方創生
3. 寄稿：アフターコロナを見据え、ピンチをチャンスに変える
(青森商工会議所専務理事 葛西 崇)
4. 特別寄稿：賃金アップ社会の実現 GOTO がつくる新しい地方の観光業
(Japa 理事、株)ふるさと回帰総合政策研究所 代表取締役 玉田 樹)
5. 解説：地方創生戦略の解釈と新たな展開方向
(日本大学理工学部まちづくり工学科 特任教授 高村義晴)
6. Blog 仕組みの群像：合意形成の前に集合知形成を
7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」からの pickup 情報
8. 読者の声
9. Japa 及び連携団体からのご案内
10. つばやき (編集後記に代えて)



注：担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人（芝原 靖典）による。

※ 本 Newsletter は、Japa 日本専門家活動協会が毎月1日に発行する会員向けの Newsletter です。
現在は、コロナ禍を勘案し、Japa 会員以外の関心者の方々にも無料配信しています。

Japa 会員募集中！

より多くの方々が会員として交流・連携・共創できることをめざして、新たに「一般会員」
(年会費3千円)枠を設けました。会員になれば、Japa フォーラムに無料参加できます。

入会に関するお問い合わせ・申込先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

Japa の連携団体一覧 <https://www.japa.fellowlink.jp/members-list> をアップしました。

より多くの連携団体の専門家の皆様と習合・連携・共創できることを目指しています。

連携団体に関するお問い合わせ・申込先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

1. コラム「論点提起」：新たな地平や如何

新年(2022年)を迎え、コロナ禍も2年余を経過した。この間、世界では2.8億人が感染し、540万人が死亡した。ワクチンの累計摂取回数は89億回に達しているが、国による格差が大きい。

今回のコロナ禍で日本においては、従来の視座、仕組みに実態とのギャップ、未来へのギャップがあるのが顕になった。今一度、日本の置かれている現実・事実を認識し、日本再生へ舵を切るべきではなからうか。コロナ禍はそうした事に気づかせてくれる良い機会となっている。

経済構造の歪(1人あたりGDP世界24位、賃金水準の30年間横ばい、購買力/実質実効為替レート50年前水準への劣化、非正規雇用の拡大等)、将来への投資の歪(半導体等先端製造技術力の喪失、先端IT/AI技術の周回遅れ、システム/アプリ開発力の劣化、コロナワクチン/治療薬の開発遅れ等)、仕組みの歪(検査・統計の繰り返される改竄、医療崩壊/自宅療養等)等々。

何故、こうした事態を招来したのか。賃金水準が低下し、購買力の落ちた日本をいつまでも円安にしていいたいのだろうか。何故、組織/供給者側(企業)対策優先で、個人/需要者側(国民、住民)対策が後回しにされるのだろうか。何故、真の日本創生、地方創生が励起しないのだろうか。

一方で、藤井聡太四冠がAI超えの1手を編み出す。内燃機関エンジン自動車100年を経て、電動モーター自動車に、そして自動運転自動車へと大きく舵が切られた。一般民間人がロシアのロケットでISSに行き、スマホ/SNSで地球と交信する。スペースXがすでに3千基に迫る小型衛星を打ち上げ、宇宙インターネット通信事業が幕開けしている。新しい息吹が感じられる。

もういい加減、過去のしがらみ/旧弊、無責任体質、旧来型仕組みに見切りをつけ、本質/矜持を歪める忖度/不正をやめ、新たな地平に向けて、視座/仕組みを切り替えるべきではなからうか。

その際、いつまでも一部のステークホルダーによる制度設計でいいのか。これだけインターネットが普及し、多様な一人ひとりの意思表示・集計が可能な時代に、「個/小集団」のレベルでの問題/課題/論点提起を受けとめ、そこに広く関心者も加わり、集合知(ソリューションのオプション)を形成し、それをもって公的な合意形成手続きに繋げるといった仕組みが考えられないだろうか。それを支える受け皿としてのデジタルプラットフォームが考えられないだろうか。

「新しい資本主義」「新しい経済」もいいが、地方の現実を見ると、こうした「新しい社会的合意形成/意思決定システム/民主主義」を考えて欲しいものである。それこそが、「政策DX」に繋がり、「個」が政策を自らのものとして考え実践する「政策普請」の礎となるのではなからうか。

「パンデミック後にはイノベーションが興る」ことは歴史が証明している。今般の莫大なコロナ対策費の投入もイノベーションの起爆剤になってこそ、意義がある。コロナ禍後の地方創生の新たな地平は、「個」(国民/住民/需要者等)をベースとした「新しい仕組み」づくりの先にあるのではなからうか、それは初夢に過ぎないのか、それとも確実な未来への一步となるや如何。

2. キュレーション「関連情報&Topics」：コロナ禍×イノベーション×地方創生

▼「2022年」創業100周年は全国で1334社、100年超の老舗企業は4万769社に 東京商工リサーチ 2021.12.03 https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20211203_01.html

東京商工リサーチの年末恒例のレポートである。100年前の1922年は、「1920年からの第一次世界大戦後の不況が続き、シベリア出兵、ソビエト社会主義共和国連邦の成立など、時代はまだ混迷から抜け出せずいた。さらに、翌年の1923年には関東大震災も発生するなど、1922年は艱難辛苦の連続だった。」とのこと。100年を超えて存続してきた企業は、「ビジョナリー・カンパニー」と云える。因みに、宗教法人などを除く世界最古の老舗企業は、聖徳太子が百済か招いた宮大工が「578年創業の社寺建築を手がける金剛組（大阪府）」である。このレポートを読むと、まさに歴史が反映されている。100年を超えて企業体を維持するには、時代環境への適応力(レジリエンス)が問われる。先達の思い、労苦を想起させるレポートである。

▼NRI 未来年表 2022-2100 野村総合研究所 <https://tinyurl.com/y5typbpg>

野村総合研究所(NRI)の年末恒例の資料である。今後予定されている出来事を「政治・社会」「経済・産業」「国際」の軸で整理し、それに併せて、NRIが独自に発表している予測を付記している。事実データに基づくほぼ確実な未来を概観するのに適している。上記の過去100年超の企業のレポートと併せ読むとなかなか興味深い。自動車が産業化して100年超を経過し、内燃機関式ガソリンエンジンから、電動式エンジンに移行し始めたように、100年とはそういう単位である。さらに言えば、「技術が十分な失敗経験を積むには200年かかる」(出典：福島原発事故に学ぶ 内閣府原子力委員会定例会 畑村洋太郎 2015年1月28日 <http://goo.gl/iMGCXQ>)と云われる。正月休みには、こういうスパンで物事を考えてみたい。

▼藤井聡太「人間が囚われてきた“常識”という名のブレーキを、AIが外してくれる」 藤井聡太×山中伸弥(スペシャル対談) 2021.12.09 現代ビジネス <https://tinyurl.com/yxvp8keo>
時代に刺激を与えている二人の対談である。AI超えの指し手を指すと云われる藤井聡太四冠のAI(将棋)に対する認識をうかがい知ることができる。「今のAIは強化学習によって、人間とは違う価値観、感覚が進歩してきたように感じます。それまで人間が気づかなかった手や判断を示されることもあるので、今までの価値観が刷新されてきて、むしろ自由度が上がったという感じがします。自分としてはAIを活用することで自分の将棋の新しい可能性を感じ、それで自分の棋力をより高めることができると考えています。」「今までの常識にとらわれずに、自分なりの発想でチャレンジしていく手をできるだけ選択していきたい」。AIが人間の存在価値/就業の場を奪うのではなく、AIこそが人間の可能性を高めると云うこの感覚に驚愕する。

▼科学技術への顕著な貢献 2021 (ナイスステップな研究者) 令和3年12月14日 文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP) <https://tinyurl.com/y5nmcv2r>

NISTEPが科学技術イノベーションの様々な分野において活躍し、日本に元気を与えてくれる10名を「ナイスステップな研究者」として毎年選定し発表している。過去には、山中伸弥教授や天野浩教授も受賞し、その後ノーベル賞をした人もいる。各人の研究内容紹介を読むだけで新たな知の地平が感じられる。研究費の心配なく、知を極めて欲しいと願うばかりである。

▼少子化の現状と対策 国立国会図書館 調査と情報 -ISSUE BRIEF- No.1163 (2021.12. 7)
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11911775_po_1163.pdf?contentNo=1

地方創生の政策目的の一つに少子化対策がある。本稿はそれに対する国立国会図書館 調査及び立法考査局社会労働課による事実ベースのレポートである。少子化は、「1974年以降半世紀近く、合計特殊出生率が国の人口規模を維持できる水準（人口置換水準：約2.1弱）を下回る状態が続いており、少子化が進んでいる。」ことの要因を整理し、これまでの少子化対策が成果を上げていないこと（要するに、実態と政策のズレ）、それを踏まえての今後の対策について言及している。少子化の要因事象として「未婚化」があり、結婚できても「シングル化」があり、「少子化」があると思われるが、何故そうならざるを得ないかの根本的なところでの問題（「経済的に不安定な若者の増加」等）に対する認識・対策が不可欠であると思料される。「仮に合計特殊出生率が1.8を回復できたとしても、日本の総人口は減少を続け、2060年代に1億人を割り込むという推計が示されている。日本において持続可能な社会を形成していくためには、人口減少を前提として、社会の諸制度や政策も再構築される必要がある」。地方創生も、そうした視座で考えると、これまでとは違った道筋が見えてくるのではなかろうか。

▼朽ち果てる農地 耕作放棄地はどこへ向かうのか？ 渡辺好明（新潟食料農業大学学長）
2021年12月17日 WEDGE Infinity <https://tinyurl.com/y3tm8m6w>

本稿は、農水省事務官等を歴任し、現在は学長の辛口の「モノ申す」論である。そもそも、法的用語、客観・主観ベースの農地の種類と統計が錯綜していた「農地」の定義・分類が素人にはよくわからない。ここから、本稿は説き起こしている。「耕地利用率」（農地の利用回転率）もある。これは、農地という“資本”回転率のような概念であろう。確かに、二毛作が放棄（農地の半年間の放棄）されれば、耕地利用率は半減する。加えて、「自然を破壊して創られた農地は、上下流をつなぐ“第二次的・安定的な自然環境”として、大きな循環系の中に完全に組み込まれている。」「農地＝農村＝地域社会と結んでみると、農地の半分以上を占める水田の効率的利用と持続的生産が不可欠になる。」「理想は、土地利用の一元管理であり、税制その他の政策もこうした全体構想の下で行う時期に来たのかもしれない」と云う。まずは、硬直的な農地管理（＝規制）が耕作放棄地拡大の源泉になることからの問い直しが必要ではなかろうか。
関連：このままでは日本のコメが消滅する 米価維持政策はもう限界 熊野孝文（元米穀新聞記者）2021年12月13日 WEDGE Infinity <https://tinyurl.com/y37jdvzv>

▼2022年の見通しに関するレポート

○今や日本は投資国家、家計・企業・金融機関・国家も投資家に 一日本は総合商社モデルに向かうー 岡三証券 NO.199 2021年12月14日 <https://tinyurl.com/y2tuo6y>

○2022年の世界情勢展望 2021年12月9日 三井物産戦略研究所 <https://tinyurl.com/yxegywkt>

○見通しにくい2022年を考える 2021年12月21日 住友商事グローバルリサーチ
<https://www.scgr.co.jp/report/survey/2021122151324/>

○内外情勢の回顧と展望(令和4年版)の公表について 2021年12月17日 更新 公安調査庁
<https://www.moj.go.jp/psia/kaitenR0401.html>

○国際政治学者イアン・ブレマー氏がどこよりも早く語る「2022年の世界5大注目点」
2021.12.28 5:05 DIAMOND online <https://diamond.jp/articles/-/291162>

3. 寄稿：アフターコロナを見据え、ピンチをチャンスに変える

(青森商工会議所専務理事 葛西 崇)

私は、現在、青森商工会議所専務理事として、地域の中小企業支援のみならず、青森市のまちづくりや産業創造などに取り組んでいます。本稿では、「ポストコロナ」、「アフターコロナ」を見据え、「ピンチをチャンスに変える」という視点から、所見や構想について触れてみたいと思います。

新型コロナウイルス感染症によって、足下では、依然として経済活動が大きく制約され、飲食業、宿泊業、運送業をはじめ、多くの分野で苦境に立たされています。必死な思いで踏ん張っている方をサポートし、既存の事業を守っていくことも勿論大事なことです。

一方で、「ポストコロナ」として、これからの地方創生のあり方、方向性について考えて見るときに、青森市においては、事業の再構築やイノベーションを興すパワーがまだ十分とは言い切れない面があります。県庁所在地である青森市においても、急速な少子高齢化・人口減少に加えて、地域の将来を担うべき若者の首都圏への流出という構造的な課題を抱えています。このことによって、企業における人材確保難や消費・需要の減少など様々な面で地域経済社会にじわじわと影響を及ぼしています。

そこでまず、将来に向けて、「コロナ」を契機に、首都圏一極集中を是正し、地方へのオフィス分散などを国主導で大胆に行っていくべきではないかと思えます。これまでも「地方創生」は謳われてきてはいますが、実効性を上げてきているとは言い難い状況にあります。それは、我が国全体の持続的発展のためにも必要なことです。

実際、首都圏の企業では、オフィスの賃料コストや通勤、出張のための移動コストなど相当な費用を負担しています。地方でのリモートワークやオフィス分散が進めば、首都圏と比べて通勤時間も大幅にカットできるだけでなく、ゆとりある環境で仕事ができ、まさに社会全体の働き方や生活習慣、価値観を見直す機会ともなります。これはただ、国に要望すれば実現するような話では勿論ありません。地域自らの強い意思や実行力が問われます。

このような中、その足掛かりとして、青森市では、コワーキングスペースの体験利用やサテライトオフィスを開設する際の支援制度を強化するとともに、首都圏のIT企業が青森市へのサテライトオフィスの展開を考えるきっかけとなるような「青森市企業誘致プロモーション動画」を作成しています。これは、新幹線駅から近い市内中心部にコワーキングスペースが多く点在している様子や、子育てにも優しい街(待機児童ゼロ)であること、充実したアウトドア環境や温泉でリフレッシュできる快適な空間を映像化したものです。

加えて、青森商工会議所では、当会館の一階にスタートアップセンターという創業・起業のアドバイスやミーティング、セミナーなどを行える施設を整備し、熱心なアドバイザーたちの努力で、創業起業者も少しずつ増えてきています。ただし、次のステップとして、実際に事業を

展開する施設(インキュベーション施設)の支援が不足していて、現在、関係機関と協議をしているところです。



青森商工会議所スタートアップセンター

リノベーションスクールの風景



また、青森市と青森商工会議所が連携した取り組みとしては、まちなかの「公共空間の新たな価値の創出」をめざした事業を進めています。これは、若者の定着促進をも狙ったものですが、若者のアイデアを活かした公共施設の空間や空き店舗などのリノベーションを進めようというものです。

若者に関心が高い情報、クリエイティブ関連産業やクラフト産業など地域資源活用型の付加価値向上を目指すインキュベーションスペース、オフィスの設置活用に係る受入れ環境の整備を加速させていければと考えています。多様な人材が集まれるような仕組みをつくることで、クリエイティブな産業創出や付加価値の高い産業形成にもつながっていくかもしれませんし、そのことによって、地域社会全体に幸せをもたらすローカルイノベーションとなり、地方創生の新たな姿が描かれていくのではないかと思います。

今や、新型コロナを契機に、生活様式や時代の価値観が変遷し、将来の地域社会の在り様をどのように見極め、構想していくか難しい局面ではありますが、未来を切り拓いていこうとする多くの仲間と夢を語り合い、挑戦していく環境づくりに今後とも努めていきたいと思えます。



リノベーションスクールのメンバー

4. 特別寄稿：賃金アップ社会の実現 GOTOがつくる新しい地方の観光業 (Japa 理事、(株)ふるさと回帰総合政策研究所 代表取締役 玉田 樹)

本論は、週刊エコノミスト(12月21日号)に書いた「所得倍増の条件 内部留保を継続的な賃上げに税制と産業政策の2本柱で実現」の`後半部分、とのことで、地方の旅館や飲食業の「賃金アップ」を図るために、GOTOの機会を活用したらどうかという提案です。

全体が8頁に渡るため、目次のみ掲載します。全文はJapaのHPにて御覧ください。

▶ Japa > 提言 <https://tinyurl.com/y5jxrz8d>

目 次

I. 賃金アップへの道筋

1. 平成時代のツケ
 - 1) 企業の内部留保による賃金の停滞
 - 2) グローバル経済に乗り遅れた日本
2. 「民も栄える」賃金アップ社会へ
 - 1) ひとつの社会像
 - 2) 賃金アップへ法人税制の活用
 - 3) 連合、企業への期待
3. 産業づくりなくして経済成長なし
 - 1) デジタル化は「産業」をつくる
 - 2) 「社会システム産業」による地方の賃金アップ

II. 中小企業の賃金アップ

1. 中小企業の「賃金アップ」は可能か
 - 1) 薄い内部留保
 - 2) 「値上げ」から入る道筋
2. GOTOを地方観光業の「値上げ」のチャンスに(例題)
 - 1) GOTO2・0への期待
 - 2) 地方の基幹産業、観光業の賃金は低すぎる
3. GOTOによる「値上げ」
 - 1) `地方貢献、による一斉「値上げ」
 - 2) 「おもてなし」が平時の値上げを担保する
4. 中小観光業の「値上げ」がもたらすもの
 - 1) 「出来ない理由」を乗り越えて
 - 2) GOTOは地方に「社会システム産業」を生む

III. 新しい社会に突入する日本

1. 旅行代金を払える社会をつくる
2. 痛みを伴うパラダイム転換

5. 解説：地方創生戦略の解釈と新たな展開方向

(日本大学理工学部まちづくり工学科 特任教授 高村義晴)

■ 地方創生と現状

2014年に人口減少、地域経済の縮小等に対応するため、国において「地方創生戦略」を主力とする構想が新たに提唱され、現在、全国の市町村で、これにもとづく戦略（地方版総合戦略）がとりまとめられ、実施される。けれど、人口減少社会についていうなら、それが成果を挙げつつあるとは言い難く、時代の荒波のなかで、ますます危機感や切迫感を募らせる。場合によっては諦め気味の達観まで漂いかねない。

そもそも「地方創生戦略」にもとづく“地方版総合戦略（以下、「地域創生」）”とは、時代の潮流の変化に翻弄される人口減少社会にあって、その変化に順応し得る「自律的で持続可能な社会」を創生していくことを目的とする。そのためには時代の変化、そして地域（先人たちの想いや願い、土地に受け継がれているものも含む）と対話をし、地域と自分らの生き方・価値観を時代の変化に順応できるよう新しくつくり変えていく。これがここでの“創生”に籠められた意味である。一言でいってしまえば、その核心は「社会創生」である、と解される。

このことからすれば、地域創生とは“地域やそこに起居する人たちの潜在可能性を、自主自由、遊戯自在の精神で花開かせ、大胆・自由な発想と地域内外のつながり、そしてその実践を通して果敢に取り組むという挑戦精神によってなしえるものである。地域がこれまでの発想や枠を超え、新たな時代に向けた一歩を踏み出さなければ、いかんともし難い。そのために、国は2014年の地方創生戦略において、「しごと創生」と「ひと創生」、そして「まち創生」を構成要素として、これらを連動させ、地域に循環構造を生み出し、これによって地域を疲弊させている根本構造を治療するという、新たな治療方法を提案した。

しかし問題は、これだけ、地域の問題が多様化し、しかも様々な問題が輻輳・複雑化し、先行きが混迷するなか、いかに一時期、優れた治療方法と声高にもてはやされても、病態に応じた、多様な治療方法が開発されていかなければ、現在の新型コロナへの対応と同じで、深刻化する事態に的確に対応することは難しい。

■ 複雑化し輻輳する地域が抱える問題への対応

しかも地域は、個々の地域にとっては、掛け替えのないものであり、先人たちの想いや願いが溶け込んだものであり、いずれ自分らも、そこに自分らの想いを溶かし込み、次の世代に引き継いでいくものである。けっして機械でも舞台でもない。そこでの治療法・施術法は、医療と同じであり、いくら誰かが称賛し推奨しても意味がない。臨床実験を通し、安全性・有効性が実証されなければ、つかえない。

いま重要とされるのは、地域創生に襲い掛かる、いつそう多様化・至難化する病態に対し、市町村、国、そして地域住民・事業者の三者が真剣になって、それに適った多様な治療方法を開

発していくことである。2014年当時の治療方法がその後、地域の疲弊・衰弱が進行している減少地域が見受けられるにもかかわらず、そのままに放置されているように思われてならない。

■ 問題の複雑化に対応する「多様な治療方法」と「臨床実験」の必要性

筆者がこれまで地域創生に関わるなかで、つねに見つめてきたのは、「地方創生戦略」の言葉をつかうなら、「ひと」を中心に、「まち」「しごと」、さらに言うなら「暮らし」「つながり」「楽しみ」などを含めて、そこに関連性を生み出し、「連携」「連鎖」「拡張」などのつながり、相乗効果を生み出し、新たな連携・循環構造を築き、地域をスパイラルに強くする地域づくり構想が描き出せないかということであった。地域創生の戦略のなかに、新たな強化成分（文脈）の導入が望まれる。

それにより“人口減少、少子高齢化等の急速な進展により需要減少に傾く地域が、地域の総力と知恵を集め、誇りと活力をもって生き長らえる地域社会を形成していく”。その原動力が、「新たな価値創造（小さなイノベーション）」であり、潤滑油となるのが、地域の生活様式（ライフスタイル）であり、土地に受け継がれる美意識であり、人のつながり（価値の共有）、共同・共助の営み、そして共有感覚（共感価値）であった。

総じて、地域には豊かな潜在的魅力資源や“ほんもの”がある。しかしそれらはそのままでは潜在可能性にしかならない。それが花開くためには、そこに新たな使い方、楽しみ方を組み合わせ、「しごと」を生み出していく。そのためには「ひと」による“価値創造”が要る。この地方の潜在可能性と、大都市等に居住する「ひと」の価値創造を結び付ける新たな仕掛けが「二地域就労構想」である。もともとは論者が命名したもので、国土形成計画にも位置づけられる。

また「ライフスタイル」や「土地の美意識」を基軸に、「しごと」「暮らし」「誇り」「楽しみ」の間につながりをつくり出し、地域に新たな連鎖・循環構造を生み出そうとするのが、「ライフスタイルのブランド化」であり「土地の美意識」による地域づくり構想である。さらに地域の「しごとづくり」に取り組む人たちの思いのなかに共有価値を創造し、それを軸に同じようにして連鎖・循環構造を目指すのが「なりわいコミュニティ構想」である。これらの文脈を「地域創生」に入れることで、戦略プログラムを強化していくことが求められる。

地域は、機械ではない。その証拠に、地域内部に自分で身体の不調を自然に治癒させる力（自然治癒力）を有するし、後遺症のごときものも出てくる。地域創生は、いかに巧みなプログラム（新薬）を開発しても、本来それだけで治すことは叶わず、地域がもつ自己治癒力の活性化・正常化を後押しすることが大事である。地域がもつ潜在性、地域住民・事業者が持つ可能性を引き出すものでなければ、大した効果は望めない。

人口減少地域の病態に応じた、多様な治療方法の開発、国の地方創生手法の改善により、地域創生戦略がより有効で、地域にとって安全が確認され、地域がもつ自己治癒力が活発化するよう検討する必要がある。

6. Blog 仕組みの群像：合意形成の前に集合知形成を

意思決定論/合意形成論については、かねてより議論がなされ、協調型合意形成/市民参加型合意形成が謳われ、現在においては、一応の公的な合意形成プロセスが法制度化されている。しかし、昨今の各種の法制度設計をみていると、果たして従来そのままがいいのか、デジタル技術を活用して、個々人（住民/国民－企業人－専門家）の意見/知恵を活用（集合知化）する「政策普請」的な「政策 DX」が必要ではないか、という思いを強くする。その一つのアイデアとして、「集合知形成デジタルプラットフォーム」の考えを取りまとめ、ブログにアップした。

▼Blog 仕組みの群像：合意形成の前に集合知形成を

<https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>

7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」からの pickup 情報

<https://japa-fellowlink.wixsite.com/website-2> ※独自サイト化しました

▼「コロナ破たん」に惑わされるな=2021 年を振り返って（前編） 東京商工リサーチ

2021.12.22 https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20211222_02.html

「売上なき利益」の異常事態=2021 年を振り返って（後編）東京商工リサーチ 2021.12.23

https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20211222_03.html

▼なぜ世界一の病床大国で医療が逼迫するのか－提供体制の構造的な要因を考える 基礎研

REPORT（冊子版）12月号[vol.297] 2021年12月07日 ニッセイ基礎研究所

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=69550?site=nli>

▼感染症の歴史から何を学ぶか？——経済学と他分野との協業に向けて—— RIEB

Discussion Paper Series No.2021-J15 2021年12月1日 神戸大学経済経営研究所

<https://www.rieb.kobe-u.ac.jp/academic/ra/dp/Japanese/dp2021-J15.pdf>

8. 読者の声

[読者の声] 昭和は遠くなりけり 第2話 赤羽町編（王子区 いまは北区）その1

子供は風の子 仲良し子供はよく遊ぶ

「子供は風の子」とよく言われ、子供は外に出てみんなと良く遊ぶものとされていた。親は子供が外で元気に遊んでいれば目を細めていた。子供は遊びの天才だ。遊び方はいくつもあって、その日その時によって好きなように遊んだ。

袋小路の中は、いい遊び場所だ。自動車も自転車なかった。大きな雑貨商があって、荷物の運搬は馬だった。馬が荷車を引いた。

子供たちは遊びを始めるときは「〇〇するものよっといで」と「〇〇するものこの指とまれ」と呼び掛ける。たいてい年長がリーダー役になる。簡単で代表的な遊びは「鬼ごっこ」と「かくれんぼ」だ。これは何も道具を使わない。「鬼ごっこ」では鬼が誰かを決める。そこで「じゃ

んけんぽん、あいこでしょ」とじゃんけんて鬼を決める。「うまとび」と「うまのり」「かけくらべ」「めかくし」「おしくらまんじゅう」も道具はいらぬ。形は幾通りか工夫しながら変える。

道具はいたってかんたんなもの。まずは「ローセキ」だ。

ローセキは地面に絵や字が書ける。子供たちは、これで地面にいろいろ書く。それを遊びのゲームに使うのだ。例えば輪を並べて書いて、片足と両足を交互にぴよんぴよん跳んでいく。ただ跳ぶだけでは面白くないから片足立ちで、何かを拾ったり、いろいろ考える。宝取りとか日曜表とか、駆けたり、跳びはねたり、いろいろと遊ぶのだ。

次は縄だ。先ずは縄跳び。一人でやるものと複数人でやるものがあり、「大波小波 ぐるりとまわして 猫の目」だ。縄跳びはいまでもよくやられている。また長いものであれば綱引きだ。女の子はゴムひもをつかっているのゴム段がある。男の子はただ見る側になる。ゴム段とは長さ2・3メートルのゴム紐の両サイドを、女の子が立って持つ。始めは50センチくらいの高さにして、そこを数人の女の子が、順番に飛びこすのだ。そして、高さを徐々に上げていき、最期は背の高さまでにする。そうするとまともには跳べないので、逆立ちして足の先をゴムにかけて、そのゴムを地面まで引き延ばして越してしまうのだ。そんな芸当をして見せるのだ。

危険を伴うのはチャンバラだ。チャンバラ映画（かつどう）を見てくると、早速はじまるのがチャンバラごっこだ。棒を剣にみたくて振りかざして相手を斬る。ケガをしないように寸前で力を抜く。あまり真剣になって、つい打ってしまうことがある。顔と頭は狙わない。あとは突きをしない。これが鉄則だ。敏捷性、瞬発力を鍛えるのだ。

夕方、日が暮れるまでは遊びの時間だ。サトウハチローの歌に「夕方のおかあさん」というがある。お母さんが外に出て「ご飯だよー」と呼ぶのだ。そんな風景が日常だった。日の長いころは、夕食をすませてから、また遊びに出る。暗くなると星がでる。誰かが星を指さして「いちばんぼーしみーつけたー」と大きな声でいう。二番目の子は応えるように「にーばんぼーしみーつけたー」と応じる。こうして子供たちの声がこだまするのだ。

(作詞・作曲家 高橋育郎)

9. Japa 及び連携団体からのご案内

▼第10回 Japa フォーラム 開催報告の案内

「第10回 Japa フォーラム」[2021年12月8日(水)開催]の開催報告(論点提起資料等)を当会のHP <https://www.japa.fellowlink.jp/japa> にアップしました。

開催テーマ：大都市等との協創による地域の仕事づくり構想(二地域就労構想)

論点提起者：高村義晴 日本大学工学部まちづくり工学科 特任教授
(一社)地域みらい推進センター代表理事

▼Japa 連携団体の一覧 <https://www.japa.fellowlink.jp/members-list> を新たにアップしました。より多くの連携団体の専門家の皆様と習合・連携・共創できることを目指しています。

連携団体に関するお問い合わせ・申込先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

▼Japa の会員募集

Japa は、会員 [正会員、一般会員]、連携団体を随時募集しています。

※ 年会費 正会員：1 万円 一般会員：3 千円

お問い合わせ先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

10. つばやき（編集後記に代えて）

2022 年が開けた。本日(元旦)まもなく、ニューイヤー駅伝がスタートする。しかし、子供夫婦達が孫を連れて来ると、「アンパンマン」の録画にテレビを奪われる。明日(2 日)の箱根駅伝(往路)と大学ラグビー選手権の準決勝、そして明後日(3 日)の箱根駅伝(復路)は静かにテレビ観戦できる。その後、散歩を兼ねて初詣に行く。去年はコロナ禍で参拝客が少なかった。今年も、オミクロン株の脅威にさらされている。マスクが手放せない。今年の春すぎには一応の収束を迎えるのではとの期待もあるが予断を許さない。何れにせよ、コロナ禍が収束状態に移行(post/with)すれば、いろいろなことが蠢動する。そこにおいて、この2 年間で何を感じ、何をしてきたかが試される。Japa もまた、一皮むけた新たな地平をめざして頑張っていきたい。本年もよろしくお願いいたします。

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

問合せ・連絡先：info@japa.fellowlink.co.jp

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <https://www.japa.fellowlink.jp/>

Copyright © 2021 Japa 日本専門家活動協会